

2025 年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小平 香織

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 湯原 妃那

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本をそして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2025 年度は、以下の 4 つを重点施策として取り組んだ。

(1) 専門教育の充実とより魅力的な授業展開

学ぶ意義・目的を学生が実感できる授業設計を推進し、適切な評価と成長実感を得られる学習活動の実践。

(2) 高い意欲を持つ学生のさらなる成長支援

教職員間で指導の方針を共有・継続するとともに、学校行事との連動を図り、学生の成長実感と学習満足度の向上を目指した。

(3) すべての学生が意欲的に学べる環境づくり

個々の習熟度に応じたグループ編成の工夫や活躍機会の創出により、より多くの学生が主体的に取り組める教育環境の整備を進めた。

(4) 一人ひとりに寄り添う継続的な教育支援と情報発信

多様な学習ニーズに対応した選べる学びの提供を推進するとともに、保護者との連携強化を通じ、本校の教育姿勢の認知拡大に努めた。

【成果】

・授業導入における動機づけの徹底やペップトークの活用、学生一人ひとりの状況に応じた個別対応を実践した結果、学習環境・授業満足度の向上につながった。担任主導のグループワークや講師陣・教科チーフとの連携強化により、クラス内のコミュニケーションと授業への納得感も高まった。

・就職支援においては、新規開拓による選択肢の拡充と就活サークルの実施を通じて、学生が複数の教員と関わりながら就職活動に臨める体制を整えた。その結果、内定率 100% を達成した。

【課題と次年度への取り組み方向性】

- ・習得した知識と現場実務のつながりをより深めることが課題として上がった。行事や授業において現場との連動をより意識した設計・運営を強化し、将来を見据えた実践的な人材育成をさらに推進していく。
- ・インターンシップやアルバイトを通じた現場経験の機会拡大を次年度の重点課題として位置づけ、自分の言葉でブライダル魅力を語る学生の育成を目指す。あわせて教員間で指導方針・目指す姿のイメージを統一し、自立・自走できる学生育成に向けた一貫した体制を整えていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業連携や模擬挙式などの体験型授業については、学生の職業理解を促進し、学習意欲や価値観の向上につながっている点が評価できる。実際に現場に近い環境での経験が、学生の成長に寄与しているものと認められる。
(湯原委員:ウェディングプランナー科)
- ・現代の学生は「選択できる環境」に慣れている、いわゆる“セレクトの時代”にあることから、一律的な指導ではなく、選択肢を提示し主体的な行動を促す関わりの重要性が指摘されている。(海野委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)
- ・ブライダル業界の特性として、華やかなイメージと実務との間に差異が存在することが示されており、在学中の段階で業界の実態について理解を深める必要があると考えられる。特に、インターンシップ等の現場経験はその理解促進に有効であり、全学生が経験できる機会を確保することが求められる。(野溝委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)
- ・社会人として求められる基礎力として、挨拶や報連相、主体的なコミュニケーション能力の重要性についても、学校で基礎を学んでおく方が良いのではないか。(梶委員:ウェディングプランナー科)
- ・今後は実務経験の充実とともに、学生の主体性を引き出す教育の推進および業界理解の深化を図り、より実践的な人材育成につなげていくことが重要だと考える。(松永委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校の理念・目的・育成人材像・特色については、入学前のオンラインオリエンテーションを通じて保護者への周知を行っている。理解を深める機会を提供し続けていくことが課題として捉えている。

② 今後の改善方策

・入学後も配布物やメール等を活用し、学校の理念や重要情報を適宜発信する機会を設けることで、保護者との信頼関係をより一層深めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・クラス運営や学校行事、教員の関わりを通じて、学生のコミュニケーション力や成長意欲の向上が図られていると思う。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・在学中には授業の目的や学習内容が将来どのように活かされるかについて十分に理解できていない学生も見受けられるため、学びの意義や職業とのつながりをより明確に伝える工夫が必要であると感じる。（野溝委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・教育活動と将来の職業観との接続をより一層強化し、学生が主体的に学べる環境づくりにつながっていくと良いのではないと思う。（梶委員：ウェディングプランナー科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・組織図はシンプルで分かりやすく機能しているが、運営体制や意思決定の仕組みについては、規則等での整理が十分とはいえない面がある。現状は新メンバーが先輩に確認しながら業務を進めており、マニュアル・規則への落とし込みを行うことが望ましい。
- ・学内の Wi-Fi 環境は整備されているものの、タイミングによっては通信環境が不安定になるケースがあり、授業に支障をきたすことがある。
- ・会議のペーパーレス化やオンライン会議の活用により情報システム化を進めているが、議事録の自動作成や生徒への資料共有等、業務効率化の面では引き続き改善の余地がある。

② 今後の改善方策

- ・情報システム部と連携し、安定した Wi-Fi 環境の整備を図る。
- ・議事録の自動作成や生成 AI を活用した業務効率化に取り組み、教職員が教育活動により集中できる環境を整える。
- ・運営規則・マニュアルの整備を継続し、新任職員でも組織の意思決定フローを明確に把握できる体制を構築する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学校運営については、教職員が学生一人ひとりに寄り添い、安心して学べる環境づくりが適切に行われていると感じる。特に、日常的な声掛けや相談対応を通じて、学生の状況に応じた柔軟な指導が実践されている点は良い取組であると思う。（梶委員：ウェディングプランナー科）
- ・現代の学生に対しては、一方向的な指示ではなく、選択肢を提示し主体的な行動を促す関わり方が有効であると感じており、こうした指導の在り方は今後ますます重要になってくるのではないと思う。（海野委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）
- ・ICT 機器の活用についても、現場では顧客対応にタブレット端末等を使用する機会が増えていることから、在学中から操作や活用に慣れておくことが必要であると感じる。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・個別対応の良さを活かしながら、教職員間で指導方法や対応の工夫を共有し、より一貫性のある学生支援につながっていくと良いと思う。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・インターンシップについては、参加した学生ほど就職活動で良好な結果につながる傾向が見られるため、より多くの学生が現場経験を積めるよう、参加率のさらなる向上が求められる。

・外部関係者による評価の機会については、プランナー科でのフェア企画プレゼンやプロジェクト科目を通じた取り組みが定着しつつある。ブライダルヘアメイク&ドレス科においても同様の仕組みを導入し、両学科で業界との連携をより深めていくことを課題として認識している。

② 今後の改善方策

・インターンシップ参加が就職・入社後のキャリア形成にいかにより有効であるかを在学中から丁寧に伝え、参加率の向上を図るとともに、即戦力として活躍できる人材の育成・輩出を推進する。

・ブライダルヘアメイク&ドレス科においても、外部関係者との連携による評価機会を積極的に設け、業界ニーズを直接カリキュラムに反映できる体制を整える。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業連携による実践的な学びや模擬挙式などの体験型授業が充実しており、学生の理解促進や学習意欲の向上に大きくつながっていると感じる。実際に現場に近い環境を体験することで、職業観や価値観の醸成にもつながっていると思う。（梶委員：ウェディングプランナー科）
- ・インターンシップ経験が教育課程の中に組み込まれており、授業と実務を関連づけながら学ぶことができている点は非常に有効だと感じる。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）
- ・実務体験の位置づけや活用方法については、学生によって理解や取り組みに差があるように感じられるため、教育活動全体の中での目的や意義をより分かりやすく伝えていく工夫が必要だと思う。（湯原委員：ウェディングプランナー科）
- ・ブライダル業界の特性として、華やかなイメージと実務との間にギャップがあるため、在学中から業界の実態や仕事の裏側についても段階的に伝えていくことが大切ではないかと感じる。（野溝委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）
- ・実務経験の充実に加え、学びの目的意識の明確化や教育内容と職業とのつながりを意識した指導が進むことで、より実践的な人材育成につながっていくのではないかと感じる。（海野委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

推薦企業や連携の深い企業については卒業生の活躍状況を把握できている一方、それ以外の企業では情報収集の機会が限られており、卒業生の評価やキャリア形成の状況を十分に把握できていない。

② 今後の改善方策

卒業生および就職先企業への定期的なヒアリングやアンケートを実施し、卒業後の活躍状況や企業評価を把握する仕組みづくりが必要である。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現場経験の有無や意識の差によって、学生の成長度や理解度に違いがあるように感じられるため、すべての学生が一定水準の実務理解を得られる仕組みづくりが必要ではないかと思う。（湯原委員：ウェディングプランナー科）
- ・業界に対する理解や志望動機の深さが就職後の定着にも影響していると感じることから、在学中の経験を通じて「なぜこの業界を志したのか」を自分の言葉で表現できる力を育てていくことが大切だと思う。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）
- ・現場経験の機会がより整理され、学びと就業後の成長とのつながりが意識できるようになることで、学修成果の向上につながっていくのではないかと感じる。（梶委員：ウェディングプランナー科）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

同窓会組織を活用した卒業生ネットワーク(Sanko Link)や毎年実施されている同窓会を通じて、卒業生への支援体制の充実が図られている。一方で、教員の異動後も卒業生とのつながりを維持できる仕組みの構築が課題となっている。

② 今後の改善方策

同窓会組織を基盤とした卒業生ネットワーク(Sanko Link)のさらなる活用を図り、同窓会 LINE の積極的な運用を通じて、卒業生との継続的な関係維持を強化する。

また、在籍中より企業担当教員と内定者との関係構築を進めることで、卒業後も主担任に限らず複数の教員による支援が可能な体制の整備を推進する。さらに、同窓会実施時のヒアリング機会を活用し、卒業生のキャリア状況や企業評価の把握を充実させる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・教職員が学生一人ひとりの状況や背景に応じて丁寧に寄り添いながら支援を行っていると感じる。日常的な声掛けや相談対応を通じて、安心して学べる環境が整えられている点は良い取組であると思う(湯原委員:ウェディングプランナー科)

・近年の学生の特性として、個々の価値観や状況に応じた柔軟な関わりが求められているため、一律的な指導ではなく、選択肢を提示し主体的な行動を促す支援が重要になってきていると感じる。(松永委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・業界特有のイメージとのギャップや入社後のミスマッチにより、早期離職につながるケースもあるように感じられるため、在学中からの意識づけや継続的なフォローが大切ではないかと思う。(野溝委員:ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・個々の状況に応じた支援の良さを活かしながら、学生が主体的に進路選択やキャリア形成に向き合えるような関わりがさらに広がっていくと良いのではないかと感じる。(梶委員:ウェディングプランナー科)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップに参加した学生は、内定や入社後において良好な結果につながる傾向が見られるが、参加率は十分とはいえず、現場経験の必要性が学生に十分に浸透していない点が課題である。

② 今後の改善方策

現場経験が採用や就職につながることに、機会の拡充と魅力付けを図ることで学生の成長意欲を高め、即戦力となる人材の育成・輩出を推進する。また、現場からの意見を踏まえ、コミュニケーション能力については場面に応じた適切な距離感を在学中に身につけられるよう指導を強化し、環境への適応力の向上を図る。

③ 特記事項

- ・海外研修制度あり。
- ・インターンシップは選択科目として運営。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・教育環境については、施設設備が整備されていることに加え、インターンシップや実習機会を通じて、実務に即した学習環境が整えられていると感じる。特に、実際の結婚式の流れや現場の動きを体験できる機会は、学生の理解を深めるうえで有効であると思う。（湯原委員：ウェディングプランナー科）

・現場経験を通じて初めて業務の実態を理解する学生も多いと感じるため、より早い段階から現場に触れる機会があると良いのではないかと思います。現場を知ることで、学習意欲の向上や進路選択の明確化にもつながるのではないかと感じる。（梶委員：ウェディングプランナー科）

・実習やインターンシップの機会が体系的に配置され、学生が段階的に現場理解を深められる環境がさらに充実していくと良いのではないかと思います。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

今後も適切な運営を継続していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

ボランティア活動を通じた学びや成長の重要性について学生へ発信しているが、参加機会の提供や活動支援の仕組みづくりは今後の課題である。

② 今後の改善方策

姉妹校との交流機会を活用し、学生の主体的な学びの定着と成長実感の促進を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

25 年度入学 2 名、26 年度入学 2 名の計 4 名の留学生を受け入れているが、同分野で観光学科を持つ札幌校では 8 名を受け入れており、留学生募集および受け入れ体制のさらなる強化が課題。

② 今後の改善方策

・留学生の個別相談、オープンキャンパス参加時の入学ネック解消。

③ 特記事項

- ・2023 年度にウェディングプランナー科が留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けた。
- ・2025 年度は教員陣の留学生制度の理解や就職先の確保を行った。
- ・留学生向けツールの作成がなされた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・留学生の受け入れについては一定程度行われており、ブライダル業界においても外国人対応のニーズがあることから、今後の可能性がある分野ではないかを感じる。(梶委員:ウェディングプランナー科)

・受け入れ体制や業界とのつながりについては、今後さらに工夫していく余地があるように感じられるため、体制づくりが進んでいくと良いのではないかと思います。(湯原委員:ウェディングプランナー科)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は教育理念に基づき、実践的な教育活動と丁寧な学生支援を通じて、安定した就職実績と人材育成の成果を上げていると評価できる。特に、企業連携や体験型授業、インターンシップ等を活用した教育は、学生の職業観形成や実務適応力の向上に寄与している。

一方で、現場経験の有無による成長差や、業界理解不足による入社後のギャップなどの課題も見受けられる。これらに対応するため、在学中からの実務体験機会の充実や、業界の実態理解を促す教育の強化が必要である。

今後は、教育内容と職業との接続をより一層意識した指導を推進し、社会に求められる実践的な人材育成につなげていくことが望まれる。